高橋氏を核とした有機JAS米の産地づくりを目指して

1. 取組の経過及び概要

(1)高橋氏の有機JAS米導入の経過

高橋裕介氏(ゆうてん農園)は、水稲42haを中心に従業員3名を雇用する土地利用型経営体。

R2年　新型コロナウイルスの影響による米価下落が経営を直撃し、収益性が低下。

R3年　県からの働きかけに呼応して、米の有利販売で収益性の向上につながる有機農業の導入を決意。

R4年　有機米の実証ほを設置し、水田除草機による栽培技術の習得を開始。

R5年　有機JAS米の本格導入に向け、有機JAS認証(転換期間中)を2.1haで取得。

有機JAS現地審査の様子

R5年度有機水稲実証ほ

(2)JAを介した流通販売体制づくり

R5年、高橋氏は県からの紹介により、生産者と有機JAS米を直接取引する有機米卸売業者(一社)Nとの商談を開始。

一方で、JAしまねでは有機農業を主体的に推進する方針の中で、新たに有機米の販売を開始するため、生産者を開拓する必要があり、高橋氏にアプローチ。

3者が話し合った結果、高橋氏はこれまで同様にJAしまねに出荷できること、(一社)NはJAからの一元集荷で物流コストが抑えられ、ロットの確保が期待できること、JAしまねは新たな販売先を確保できることなどのメリットがあることから、JAしまねを介した(一社)Nとの顔の見える取引を開始。

(3)「松江地区有機米産地ビジョン」づくり

松江地区の有機農業は、これまで先行する(農)やないのように個々の生産者の取組であったが、高橋氏の参入を契機に、供給ロットを確保し、(一社)Nの需要を踏まえたマーケットインの視点で需要に応じた生産拡大と産地づくりを進めるために松江地区全体での有機JAS米の産地づくりビジョンを作成。

2. 取組の成果

(1)関係機関で産地ビジョンの合意形成

高橋氏の取組を核とした「松江地区有機JAS米の産地づくりビジョン」を提案し、関係機関(松江農林振興協議会農産部会)で合意形成。

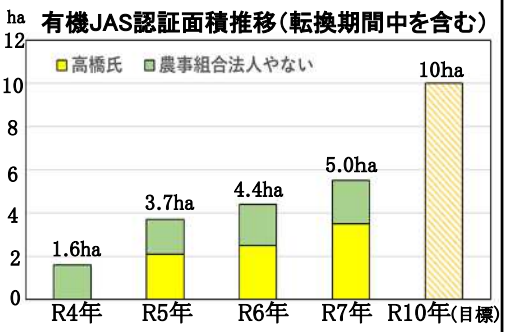
(2)有機米の生産意欲の向上

実需(有機米卸売業者(一社)N)から有機米の情勢や実需者ニーズなど直接話を聞くための意見交換の場を設けたことで、生産者の有機米生産意欲が向上。

生産者と米卸売業者の意見交換会

(3)有機JAS認証取得面積の拡大

R6年には松江地区の有機JAS認証取得面積が4.4haへ拡大、R7年には5haに拡大予定。R10年には生産者4名、10haが目標。



(4)新規生産者1名を確保

実証ほにおいて、水稲の担い手を対象に、乗用型水田除草機の現地研修会を開催したことをきっかけに新規生産者を1名確保。

水田除草機実演会の様子

代表者から一言

有機水稲にチャレンジしてからは、日々勉強と思っている。安定した生産のため、栽培技術を習得し、生産拡大に向けて取り組みたい。　高橋裕介氏

3. 課題と今後の取組方向

(1)除草技術習得、病害虫(いもち病、イネカメムシ)防除対策に必要な品種・ほ場選定により、目標収量360kgの安定確保

(2)有機米の経済性把握と適正な価格形成に反映

(3)生産拡大にともなう集荷体制や機械の共同利用などの産地の体制づくり

(4)新規生産者の掘り起こし

＜問合せ先＞東部農林水産振興センター農業振興部　松江地域振興第二課　0852-32-5687